

① 学習指導案 学校指定様式可

プログラム	No.5 「 地域カルタをつくろう 」 (モデルプログラム)
単元名 (全37時間)	「まちの魅力が伝わる俳句をつくろう ～あさひのまちの魅力を発見し、みんなにもこのまちの魅力を知ってもらおう～」
学習のねらい	○自分の暮らす身近な地域、景観の良いところを形づくっている要素にはいろいろあることに気付く。 ○写真や絵、文章などで表現する力を高める。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校内探検をしながら、様々な景観に着目し写真を撮る。 ・学区内を探検し、まちの魅力ある景観の写真を撮る。 ・それぞれが撮影してきたまちの景観の魅力が伝わるように言葉で表現する。 ・まちの魅力を写真と俳句で分かりやすく伝える。
参考資料 準備品 実施場所等	〔用具〕タブレット端末（撮影・編集）、筆記用具、ワークシート、探検バック 〔参考資料〕教師のモデル教材 〔場所〕学校周辺、教室、校内

学習の流れ

時間	学習内容	教師の支援・留意点	評価
10	<p>「校内に隠れている自分のお気に入りの場所を見つけよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の景観に着目し、普段見慣れたものにも魅力が隠れていることに気付く。 ・写真だけではなく、文章でも魅力を表現する良さについて知る。 ・校内のお気に入りの場所探しをし、タブレットで撮影する。 ・自分のお気に入りの場所を紹介する文章を書く。 ・お気に入りの写真の魅力が伝わるように俳句で表現する。 ・友達と紹介し合い、魅力の伝わりやすさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入として、普段見慣れた校内の場所（景色や教室）の写真と、その魅力を紹介する文章を提示する。 ・写真だけではなく、短い言葉で分かりやすく魅力を紹介する方法として、俳句があることを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の意欲（観察） ・関わる力（観察） ・思いをもつ力（観察及び成果物）

15	<p>「あさひのまちの魅力を見つけよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 方面別のグループに分かれて地図とタブレットを持ち、まちの魅力を発見しに行く。 • まち探検を通して、あさひのまちの魅力に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者ボランティアに協力していただくことで、子どもたちがそれぞれの興味別に分かれて活動できるようにする。 • まちの魅力を紹介するための写真を撮るという目的意識をもって取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 思いをもつ力(観察及び成果物) • 活動の意欲(観察) • 関わる力(観察) • 試行錯誤力(観察等) • 表現力(観察・成果物)
6	<p>「あさひのまちの魅力が伝わる俳句をつくろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 撮影した写真をもとに、その魅力が伝わるように俳句で表現する。 • 国語科の「言葉の宝箱」「国語辞典」などを用いることで、自分の表現の幅を広げる。 • タブレットを用いて編集する。 • 撮影した写真をもとに、その魅力が伝わるように俳句で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 写真と俳句を組み合わせることで、写真だけでは伝わらない魅力を言葉で伝えるという必要性を感じられるようにする。 • 「言葉の宝箱」「国語辞典」などを用いることで、自分の表現したい言葉に合うぴったりの語句を選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 思いをもつ力(観察および成果物) • 活動の意欲(観察) • 関わる力(観察) • 試行錯誤力(観察等) • 表現力(観察)
6	<p>「まちの魅力が伝わる俳句を友達に紹介しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 見つけたお気に入りの場所の写真とその魅力が伝わる俳句を見せながら発表する。 • 自分たちの住むまちに隠れているたくさんの魅力について改めて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 発表する相手を意識して、まちの魅力が伝わるような分かりやすい発表の仕方について考え、視点を絞って練習できるようにする。 • 互いの発表を見合うことで、まちの魅力を再発見し、さらに「みんなに広めたい」という意欲に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自己肯定感(振り返り記録) • 表現力(観察)

② 事業実施報告書詳細

第1小単元 「校内に隠れている自分のお気に入りの場所を見つけよう」

教師が校内にあるお気に入りの場所(景色、教室)の写真を子どもたちに示すと、子どもたちは普段見慣れたところであることに気付き、興味を示していた。さらに、写真だけでなく短い言葉でこの場所の魅力を紹介する方法を示すことで、写真と言葉を組み合わせることで魅力が伝わりやすくなることに気付くことができた。「やってみたい」「自分にもできそう」という意欲をもって校内探検を行い、普段見慣れたものにも魅力が隠れていることを知ったりその魅力を紹介したりする活動を行った。

第2小単元 「あさひのまちの魅力を見つけよう」

校内探検から活動の幅を地域に広げ、まちの魅力を友達と協力して紹介する活動を計画した。グループで方面別に分かれて活動したため、学級が地域全体に広がって様々な場所で活動できた。タブレットを用いて、魅力ある地域の景観に着目して写真を撮るという活動に子どもたちは意欲的だった。写真の撮り方によって、魅力の伝わり方が異なることに気付いた児童は、構図も工夫するようになった。



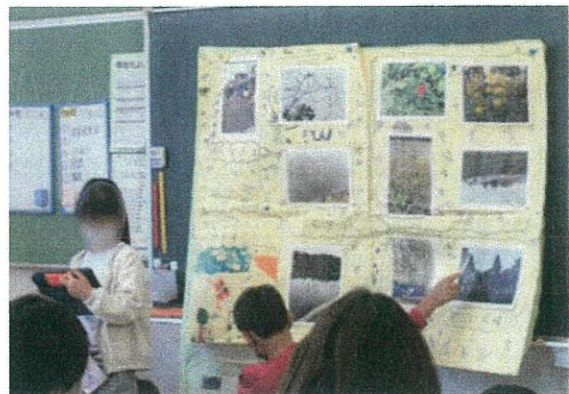
第3小単元 「あさひのまちの魅力が伝わる俳句を作ろう」

子どもたちは、まちの魅力をたくさん写真に撮ることができた。写真だけでは伝わらない魅力を、言葉でも表現する方法として俳句を用いることにした。短い言葉で、分かりやすく魅力を伝える方法として、子どもたちも慣れ親しんでいた。国語で学習した「言葉の宝箱」や辞典を用いて、自分の伝えたい意味にぴったり合う言葉を探して表現の幅を広げようとしている子どももいた。さらに、タブレットで写真と言葉を組み合わせる編集の仕方を学び、写真をより魅力的に魅せられるように工夫していた。



第4小単元 「まちの魅力が伝わる俳句を友達に紹介しよう」

写真と俳句を用いて、自分が発見したまちの魅力を学級の友達と紹介し合う活動を行った。子どもたちは、普段見慣れたまちにもたくさんの魅力が隠れていることを知ったり、まちの魅力を紹介する面白さややりがいを感じたりし、さらにまちの魅力を紹介する相手を全校に広げていきたいという意欲をもった。



③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

社会科の町探検から、子どもたちが興味をもった場所を材にして活動することが意欲につながった。普段見慣れた場所でも、見方を変えると面白いものに見えたり、美しいものが広がっていたりすることに気付くことができるよう、校内の景観や教室の写真を取り挙げてクイズにして紹介したりした。さらに、写真だけではなく、感じたことを言葉でも表現することを積み重ねることで、相手により伝わりやすくなることを子どもたちは実感していた。

(2) 実施にあたり苦労した点

コロナ禍ということもあり、施設内や店内を探検することが難しいということで、限られた材の中で子どもたちの興味を向ける必要があった。町探検の際に、自然と子どもたちが景観に目を向けるようになったため、振り返りなどで撮影した写真を友達と見合うことで、それぞれのお気に入りの場所や景色などが共有できるようになった。発表する際には、自分のお気に入りのところを話すようにすると、普段見慣れた場所にも愛着をもてる雰囲気になっていった。また、探検する際には、少人数のグループでの行動が必要だったため、安全確保のためにボランティアで保護者を依頼して探検を行った。授業の日程の確保のために、保護者への周知が直前の連絡になってしまうことも多かったため、人数を確保することが難しかった。

(3) 児童の反応

まち探検を通して、自分たちの地域のまだよく知らないことや、行ったことのない場所があることに気付いた。また、写真を撮るといふ活動はとても意欲的だったが、目的が撮影することだけにならないように、全校に旭の地域の魅力を紹介するという活動のめあてをもって学習を進めていた。相手を意識したことによって、分かりやすい言葉でまとめようとしたり、写真の撮り方やレイアウトを工夫したりし、表現することを楽しんでいった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

活動を通して、教師自身も地域の材を知るきっかけとなった。さらに、当初はタブレットの活用に心配があったが、子どもたちが地域の自然や町の様子を記録として思い起こしたり、映し出して共有できたりすることができるので、安全に活用すればとても便利であると感じた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

教師自身が「総合的な学習の時間」の進め方について、見通しをもつことが難しかったため、学習のスタートが遅れてしまった。また、子どもたちの目的意識が「全校に地域の魅力を伝える」ことだったため、初めから活動の範囲を狭めてしまったかもしれないと感じる。しかし、子どもたちの住む地域を材に取り挙げたことで、景観というものをより身近に感じられるようになっていった。